

完了後の評価個表

整理番号	15-1
------	------

事業名	森林居住環境整備事業	都道府県	岐阜県
ふりがな 地域(地区)名	きたよしき 北吉城	事業実施主体	岐阜県、 高山市(旧国府町・旧上宝村) 飛騨市(旧神岡町・旧宮川村)
関係市町村	高山市(旧国府町・旧上宝村) 飛騨市(旧神岡町・旧宮川村)	管理主体	高山市(旧国府町・旧上宝村) 飛騨市(旧神岡町・旧宮川村)
事業実施期間	H14 ~ H19 (6年間)	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>①位置等 飛騨市(旧宮川村、旧神岡町)、高山市(旧国府町、旧上宝村)は岐阜県の最北端に位置し、北は富山県、東は長野県に接している。 周囲は北アルプスをはじめとする飛騨山脈とその支脈に囲まれた山村地域で、神通川水系の宮川と高原川が当地区を貫流している。また、南部に位置する旧国府町は、飛騨随一の平坦部古川盆地の南部を占めている。</p> <p>②森林の状況 当地区の総面積は107,640haで、うち森林面積は101,747ha(民有林面積3,301ha)、林野率は、95%である。民有林の森林資源の現況は、面積63,301ha、蓄積9,312m³で人工林率28%となっている。土地の形状や気候の厳しさからスギなどの人工林の面積割合は低く、森林面積の72%を天然林、広葉樹が占めている。人工林は、保育を必要とする樹齢の若いものが大半であるため今後も長期にわたって除伐・間伐などの森林施業を実施していく必要がある。</p> <p>③当地区を整備する目的・意義 近年の木材価格の低迷等により、林業従事者の減少、高齢化が進んでいることから、施業集約化、高性能林業機械の導入等による低コストを促進し、間伐材や低質材の有効活用を進めるなどして、林業生産性の向上を図る必要があるが、森林整備を効率的に実施するための基盤となる林道等の路網が未整備であったため、林道整備を実施した。 当地区では、起伏の激しい地形で集落が点在しているため交通手段を専ら自家用車に頼っているが、各区間を結ぶ道路は狭隘な市道などが多く、地域住民から法面保全、路面整備などの通行の安全性を求める声が強いため森林基幹道や集落林道の整備を実施した。 また、旧神岡町にあっては、上下水道・簡易水道の行政区域人口に対する普及率は96.6%となっており、水道未普及地区の解消に努めるため用水施設整備を実施した。</p> <p>(事業概要) 森林基幹道整備 開設 ①洞～数河線 車道幅員 4.0m 開設延長 3,280m 利用区域面積 3,353ha ②宮谷～明ヶ谷線 車道幅員 3.0m 開設延長 2,579m 利用区域面積 1,248ha 改良 ③洞～数河線 雪害防止 改良箇所 3箇所 利用区域面積 3,353ha ④双六～瀬戸線 局部改良 改良箇所 4箇所 利用区域面積 4,638ha 集落林道整備 ⑤桐谷～下り谷線 車道幅員3.0m 改良箇所 2箇所 受益者数 8戸 ⑥寺林・吉田線 車道幅員3.0m 改良箇所 2箇所 受益者数 9戸 用水施設整備(西漆山) ⑦漆山 河川取水(飲雑用水) 受益者数 19戸 総事業費 1,353,751千円 (事業採択時 2,752,000千円)</p>
----------	---

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成25年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 事業内容の変更(他事業への移行)に伴い、事業採択時に比べ総事業費、総費用、総便益が減少した。</p> <p>総便益(B) 3,525,325千円 (事業採択時 4,009,665千円) 総費用(C) 2,273,112千円 (事業採択時 2,565,061千円) 分析結果(B/C) 1.55 (事業採択時 1.56)</p>
-------------------------	--

② 事業効果の発現状況	<p>林道整備により、施業地までの到達時間の短縮及び作業コストの低減が図られ、整備量が増加した。 林道改良により、崩壊土砂や落石除去など維持管理費の軽減と通行車両の安全性の向上が図られた。 集落林道の整備により、山村集落住民の生活の利便性が向上した。 日々の暮らしに水質管理され、安定した水を供給することができるようになった。</p>
-------------	---

<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<p>当事業により開設された林道は、高山市が定めた林道管理規則及び飛驒市が定めた維持管理条例に基づき適正に管理され、地域住民による沿線の草刈り等も行われ良好に維持管理されている。 また、当事業により整備された用水施設については飛驒市により日々水質管理されている。</p>
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<p>林道整備により森林施業地までの到達時間の短縮等により、林業従事者の労働条件の改善や作業コストの低減が図られ森林所有者の森林経営に対する意欲が向上している。 林道整備による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少等の影響は見受けられない。</p>
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>林道整備により、労働強度の軽減、高性能林業機械の導入や運搬車両の大型化が可能となったことから、作業コストの低減による林業生産性が向上しつつある。 なお、用水施設は水質管理され安定した水が供給されている。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>森林整備に対する森林所有者の意欲が徐々に増進されているものの、木材価格の低迷等により、未だ森林整備が十分とは言えない状況にある。 今後は、さらなる路網の整備や施業の集約化、高性能林業機械の導入促進等による林業生産性の向上を図り、安定的な木材生産、森林整備を推進していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の意見： 森林整備事業の実施により、土砂流出の防止、水源涵養の機能等の公益的機能の高度発揮の寄与している。（岐阜県） <p style="padding-left: 40px;">林道の整備、改良により崩落土砂や落石の除去等の維持管理の軽減や冬期通行の安全が図られた。（高山市、飛驒市）</p> <p style="padding-left: 40px;">用水施設整備により日々の暮らしに水質管理され安定した水を供給することができるようになった。（飛驒市）</p>
<p>評価結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 森林整備や基盤となる路網整備が総合的に実施されていること。 集落林道整備による山村集落住民の生活の利便性の向上が図られたこと。 以上のことから事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 森林整備及び林道の計画に当たっては、現地に応じた効果的かつ効率的な工種・工法が採用されるとともに、事業実施に当たってもコスト縮減に努め総事業費の削減が図られたことから事業の効率性が認められる。 ・ 有効性： 林道整備により、森林へのアクセスが容易となり作業効率の向上及びコストの低減が図られたことから森林整備が促進され今後も一層の効果の発現が見込まれること。 整備された林道が災害時の迂回路としても機能していること。 集落林道の整備により山村集落住民の生活環境が向上していること。 以上のことから、事業の有効性が認められる。

便 益 集 計 表

(林道事業)

事業名：森林居住環境整備事業

都道府県名：岐阜県

地域(地区)名：^{きたよしき}北吉城

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	2,998	
	木材利用増進便益	46,137	
	木材生産確保・増進便益	63,073	
森林整備経費縮減等便益	治山経費縮減便益	1,082,562	
	森林管理等経費縮減便益	57,780	
	森林整備促進便益	628,599	
災害等軽減便益	災害時迂回路等確保便益	9,716	
	災害復旧経費縮減便益	12,561	
維持管理費縮減便益		891,044	
山村環境整備便益	生活用水確保便益	96,478	
	集落内除雪便益	634,377	
総 便 益 (B)		3,525,325	
総 費 用 (C)		2,273,112	
費用便益比	$B \div C = \frac{3,525,325}{2,273,112} = 1.55$		

(注)便益額算定方法は、代表路線を表示しています。

森林居住環境整備事業 平面図 (北吉城地区)



番号	事業名	路線名	備考
①	森林基幹道整備	洞～数河線	開設
②	森林基幹道整備	宮谷～明ヶ谷線	開設
③	森林基幹道整備	洞～数河線	改良
④	森林基幹道整備	双六～瀬戸線	改良
⑤	集落林道整備	桐谷～下り谷線	改良
⑥	集落林道整備	寺林～吉田線	改良
⑦	用水施設整備	西漆山	用水施設

凡 例	
	北吉城区域
	林道
	用水施設
①～⑥	林道位置